

昔々、はらんだ猫がいたが、子を宿せるようになるまでに時間がかかったので、彼女が子を産む時にはひとりぼっちになってしまい、父親も母親も祖母もそこにはおらず、ひとりで子を産んだ。子供を産んだ後、彼女は身体を洗うために大きな鍋で湯を沸かした。身体を洗った後、彼女は、子猫を家にひとりで置いたまま、畑に行くために外出した。子猫は母親が湯を沸かすのを見ていたが、沸いた水が危ないことには気づいていなかった。彼は母親のやったことを真似しているうちに、鍋の中の水は沸騰してしまった。

畑から戻った母親は、子猫が沸騰したお湯の中で死んでいるのを見つけた。彼女は泣きながら呻いた。彼女が嘆いているのを聞きつけて祖母が駆け寄って来て何が起こったのかを尋ねた：

「どうしてこの生まれたての子が、鍋で湯を沸かすことなど出来たの？」。

彼女は答えた：

「多分私が身体を洗うのに湯を用意したのを見ていたんでしょう」。

祖母は言葉を返した：

「あー、あー、お前は馬鹿なことをした。子供が見ている時に鍋を使っては絶対にいけない。もし子供の前でそれをやれば、子供は真似をする。子供がいる時にすることには気を付けなくてはならない。子供は大人がすることをいつも真似するんだよ」。